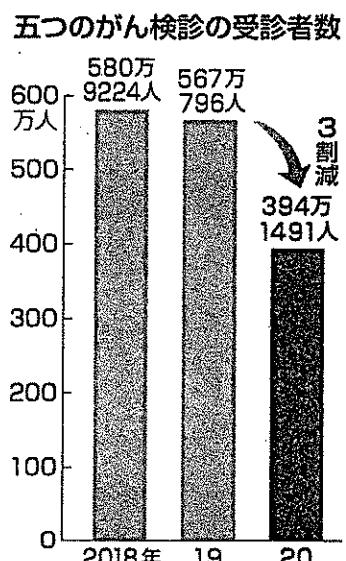


最大2100人程度 未発見の恐れ

2020年に胃や大腸などのがん検診を受けた人が前年より約3割減ったことが17日、日本対がん協会（東京都中央区）への取材で分かりました。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う検診の中止や、市民の受診控えが原因とみられます。調査した同協会は最大21

がん検診3割減 前年比



(注)延べ人数、全国32支部が回答。
日本対がん協会の調査より

00人程度が、がんを発見されなかつた恐れがあるとして、早期受診を呼び掛けています。

市区町村のがん検診を受託する全国42支部に20年で、19年の同567万7千人が今年2～3月、のがん検診を受けた人は大腸、乳、子宮頸（けい）

の受診者数などを尋ね、32支部から回答を得ました。その結果、胃、肺、肝臓（かんぞう）などのがんは検診以外に、

別の疾患を治療中に偶然見つかることも多く、新型コロナ拡大による通院比で約85%減りました。

5月は同93%減で、宣言

解除後に受診者数は増え始め、10月には18、19年の水準に戻りました。

減少幅やそれぞれのが

んの発見率から推計する

と、20年はがん未発見の

人が1000～2100人程度いる恐れがあること

になりました。

特に、最初の緊急事態宣言が発令された昨年4月の受診者は、19年同月比で約85%減りました。

5月は同93%減で、宣言

解除後に受診者数は増え始め、10月には18、19年の水準に戻りました。

減少幅やそれぞれのが

んの発見率から推計する

と、20年はがん未発見の

人が1000～2100人程度いる恐れがあること

になりました。

特に、最初の緊急事態

宣言が発令された昨年4

月の受診者は、19年同月

比で約85%減りました。

5月は同93%減で、宣言

解除後に受診者数は増え

始め、10月には18、19年

の水準に戻りました。

減少幅やそれぞれのが

んの発見率から推計する

と、20年はがん未発見の

人が1000～2100人程度いる恐れがあること

になりました。

特に、最初の緊急事態

宣言が発令された昨年4

月の受診者は、19年同月

比で約85%減りました。

5月は同93%減で、宣言

解除後に受診者数は増え

始め、10月には18、19年

の水準に戻りました。

減少幅やそれぞれのが

んの発見率から推計する

と、20年はがん未発見の

人が1000～2100人程度いる恐れがあること

になりました。

特に、最初の緊急事態

宣言が発令された昨年4

月の受診者は、19年同月

比で約85%減りました。

5月は同93%減で、宣言

解除後に受診者数は増え

始め、10月には18、19年

の水準に戻りました。

減少幅やそれぞれのが

んの発見率から推計する

と、20年はがん未発見の

人が1000～2100人程度いる恐れがあること

になりました。

特に、最初の緊急事態

宣言が発令された昨年4

月の受診者は、19年同月

比で約85%減りました。

5月は同93%減で、宣言

解除後に受診者数は増え

始め、10月には18、19年

の水準に戻りました。

減少幅やそれぞれのが

んの発見率から推計する

と、20年はがん未発見の

人が1000～2100人程度いる恐れがあること

になりました。

特に、最初の緊急事態

宣言が発令された昨年4

月の受診者は、19年同月

比で約85%減りました。

5月は同93%減で、宣言

解除後に受診者数は増え

始め、10月には18、19年

の水準に戻りました。

減少幅やそれぞれのが

んの発見率から推計する

と、20年はがん未発見の

人が1000～2100人程度いる恐れがあること

になりました。

特に、最初の緊急事態

宣言が発令された昨年4

月の受診者は、19年同月

比で約85%減りました。

5月は同93%減で、宣言

解除後に受診者数は増え

始め、10月には18、19年

の水準に戻りました。

減少幅やそれぞれのが

んの発見率から推計する

と、20年はがん未発見の

人が1000～2100人程度いる恐れがあること

になりました。

特に、最初の緊急事態

宣言が発令された昨年4

月の受診者は、19年同月

比で約85%減りました。

5月は同93%減で、宣言

解除後に受診者数は増え

始め、10月には18、19年

の水準に戻りました。

減少幅やそれぞれのが

んの発見率から推計する

と、20年はがん未発見の

人が1000～2100人程度いる恐れがあること

になりました。

特に、最初の緊急事態

宣言が発令された昨年4

月の受診者は、19年同月

比で約85%減りました。

5月は同93%減で、宣言

解除後に受診者数は増え

始め、10月には18、19年

の水準に戻りました。

減少幅やそれぞれのが

んの発見率から推計する

と、20年はがん未発見の

人が1000～2100人程度いる恐れがあること

になりました。

特に、最初の緊急事態

宣言が発令された昨年4

月の受診者は、19年同月

比で約85%減りました。

5月は同93%減で、宣言

解除後に受診者数は増え

始め、10月には18、19年

の水準に戻りました。

減少幅やそれぞれのが

んの発見率から推計する

と、20年はがん未発見の

人が1000～2100人程度いる恐れがあること

になりました。

特に、最初の緊急事態

宣言が発令された昨年4

月の受診者は、19年同月

比で約85%減りました。

5月は同93%減で、宣言

解除後に受診者数は増え

始め、10月には18、19年

の水準に戻りました。

減少幅やそれぞれのが

んの発見率から推計する

と、20年はがん未発見の

人が1000～2100人程度いる恐れがあること

になりました。

特に、最初の緊急事態

宣言が発令された昨年4

月の受診者は、19年同月

比で約85%減りました。

5月は同93%減で、宣言

解除後に受診者数は増え

始め、10月には18、19年

の水準に戻りました。

減少幅やそれぞれのが

んの発見率から推計する

と、20年はがん未発見の

人が1000～2100人程度いる恐れがあること

になりました。

特に、最初の緊急事態

宣言が発令された昨年4

月の受診者は、19年同月

比で約85%減りました。

5月は同93%減で、宣言

解除後に受診者数は増え

始め、10月には18、19年

の水準に戻りました。

減少幅やそれぞれのが

んの発見率から推計する

と、20年はがん未発見の

人が1000～2100人程度いる恐れがあること

になりました。

特に、最初の緊急事態

宣言が発令された昨年4

月の受診者は、19年同月

比で約85%減りました。

5月は同93%減で、宣言

解除後に受診者数は増え

始め、10月には18、19年

の水準に戻りました。

減少幅やそれぞれのが

んの発見率から推計する

と、20年はがん未発見の

人が1000～2100人程度いる恐れがあること

になりました。

特に、最初の緊急事態

宣言が発令された昨年4

月の受診者は、19年同月

比で約85%減りました。

5月は同93%減で、宣言

解除後に受診者数は増え

始め、10月には18、19年

の水準に戻りました。

減少幅やそれぞれのが

んの発見率から推計する

と、20年はがん未発見の

人が1000～2100人程度いる恐れがあること

になりました。

特に、最初の緊急事態

宣言が発令された昨年4

月の受診者は、19年同月

比で約85%減りました。

5月は同93%減で、宣言

解除後に受診者数は増え

始め、10月には18、19年

の水準に戻りました。

減少幅やそれぞれのが

んの発見率から推計する

と、20年はがん未発見の

人が1000～2100人程度いる恐れがあること

になりました。

特に、最初の緊急事態

宣言が発令された昨年4

月の受診者は、19年同月

比で約85%減りました。

5月は同93%減で、宣言

解除後に受診者数は増え

始め、10月には18、19年

の水準に戻りました。

減少幅やそれぞれのが

んの発見率から推計する

と、20年はがん未発見の

人が1000～2100人程度いる恐れがあること

になりました。

特に、最初の緊急事態

宣言が発令された昨年4

月の受診者は、19年同月

比で約85%減りました。

5月は同93%減で、宣言